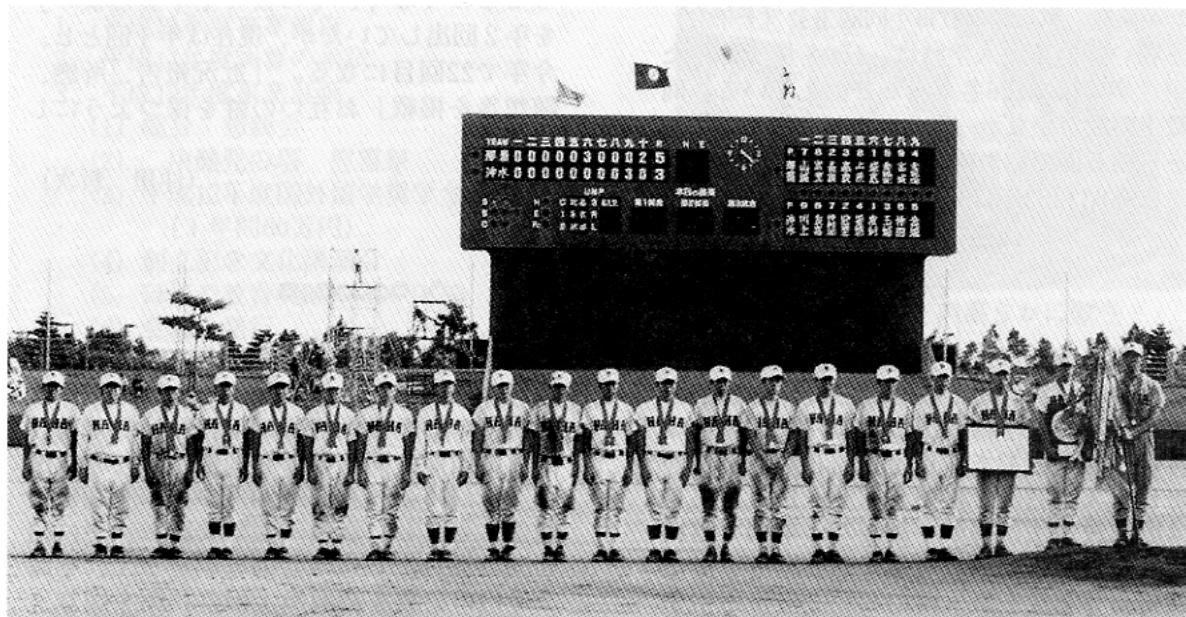


卓志報



▲夏の甲子園初出場を決め、表彰を受ける那覇高ナイン

○○○○○○○○○○ 44年ぶり二度目の優勝 夏の甲子園初出場! ○○○○○○○○○

手に汗握る攻防の末、粘って甲子園初出場の栄冠を手にした本校野球部。

7月16日の北谷公園野球場の三塁側スタンドは応援にかけつけた生徒や父母、O Bで埋め尽くされ、夏の甲子園出場を決めた瞬間スタンドは歓喜の渦に包まれた。実に44年二度目の優勝である。夏の甲子園出場は初めての快挙なのだ。

優勝戦の対戦相手は、十度目の優勝を目指す沖縄水産。試合は5回まで本校豊原対沖水友利の投手戦で、0対0の均衡が続いた。6回表に、本校が四球や敵失などで、一死二、三塁のチャンスに押し出しなどで3点を先制。三番長嶺の2点適時二塁打で、勝ち越し、三番手の成底がその裏の沖水の攻撃を無得

点に抑えて、優勝戦を飾ったのである。

本校の野球部は、一戦ごとに成長（池村監督談）し、強くなっていた。「満身創痍の那覇」と評されたにも拘らず、優勝できた原動力は、チーム内の競争が奏功し、全員野球ができたことだという。

ナインは、8月8日の開幕に合わせて、3日に出発する。伸び伸び野球で楽しくプレーしてほしい。

	回戦	スコア	相 手
1	10-0	南部商	
2	8-2	具志川	
3	8-1	浦添	
準々	6-2	中部商	
準決	2-1	浦添商	
決勝	5-3	沖縄水産	

同期生会だより

○○○○○○○○○○ 千午会（二中28期生）○○○○○○○○○○

吾々28期卒の入学は昭和12年4月で卒業は昭和17年3月であった。卒業の年が壬午、ジンゴカイの年だったので同期会の名称を「壬午会」と名付けている。

卒業時、戦後になり毎年同期生会（壬午会）を開いている。入学時は、150名位であったが、卒業後は126名だったと憶えている。同級生の数が少なかったせいいか結束力も強く、あらゆる面で協力的である。

去る昭和62年は卒業してから45周年目の

節目に当たるので記念事業として、記念誌を発刊することにした。記念誌は会員の親睦と会活動の発展とお互いの心の絆を保つことを目的としている。記念誌発刊で終わらせるのでなく、その後「壬午会だより」を年2回出していたが、現在は年1回とし、今年で22回目になる。「近況報告、所感、随想等を掲載」お互いの絆を保つようにしている。

(仲里 哲次)



那霸高校一期会

砲弾で荒れ果てた天妃小学校跡に昭和22年10月1日に首里高校那覇分校（学区域那覇市、港村、小禄村、真和志村及び豊見城村の一部）として、首里高校と糸満高校等から転入、男子A組68名、女子B組は35名は旧制教育法に基づく最後の4年制で昭和23年3月23日米軍政府より独立認可を得た那覇高等学校を第一期生として昭和23年3月27日に卒業しました。

私達同期は、戦前の中等学校の1年から3年 在学中に沖縄戦に参戦してP.W.となつたハワイ帰りもあり、年齢も2歳から3歳

の差があり、しかも在学僅か6か月足らずの短い期間で、友情が芽生える間もありませんでしたので、昭和47年11月30日に第3回目の同期会開催の際、同期生相互の連携親交を深めるべく毎年10月の第4土曜日に開催することに満場一致で決議し、更に昭和60年10月26日には会則を制定して、年間2千円の会費を徴収の上相互扶助を図り、親睦を深めております。なお、平成10年には卒業50周年記念行事の一環として思い出の写真集を刊行致しました。

(阿嘉 宗徹)



那霸高十期生会

我々、那覇高十期生の同期会は、毎年、10月に開かれている。以前は一人の会長が何年かを受け持っていたが、現在は、各組が順送りに主催するようになっている。

11組まであったから、11年に一度、その責任が廻ってくることになる。

一昨年は、8組の担当で、丁度、還暦の節目にあたることから、合同還暦祝いで、かつてない参加者で盛り上がった。

昨年は、わが9組の蚕で高校時代の思い

出といえば、後悔と悔恨しかない私が会長をしなければならない破目になり途方にくれた。仕方がないので、開き直り、還暦の後は、定年退職であるのに思いあたり、これからは高齢化時代を目指し、元気で頑張ろうと呼びかけ、予想以上の出席者を得て安堵した。今年は20世紀最後の同期会となる。いま歴史と人生の曲り角にいるのを実感している今日、この頃です。

(山田 良幸)

城岳同窓会定期総会・懇親会

平成12年度定期総会が5月31日（水）午後5時30分より、東急ホテル1階ゴールデンホールにおいて開催された。

総会は、宇良宗真会長の挨拶の後、会長が議長となり、議事を進行した。

議 事

1. 平成11年度事業報告
2. 平成11年度決算の承認
3. 平成12年度事業計画
 - (1) 総会・懇親会
 - (2) 二中健児の塔 慰靈祭
 - (3) 平成12年度国外留学奨学金の授与
(1年間80万円)
 - (4) 創立記念文化講演会
 - (5) 母校の教育奨励事業
 - (6) 会報の発行
4. 平成12年度予算

事務局より報告事項や審議事項について説明があり、全会一致で承認された。
今年度の役員はつぎの通りである。

会長 宇良 宗真（二中33期）
副会長 金城 弘征（那高1期）
〃 翁長 助裕（那高7期）

副会長 高良ミチ子（那高12期）

〃 金城 永真（校長）

監事 屋比久嘉光（二中34期）

〃 金城 克則（那高3期）

〃 福 直治（那高37期）



▲二中校歌を声高らかに歌う

最後に校長挨拶があった。金城永真校長は去る4月那覇西高等学校から赴任された。

懇親会は6時より開催され、260人余の会員が参加し広いホールいっぱい熱気にあふれた。二中卒の皆さんは意氣軒昂で二中の校歌を高々と歌い、那覇高卒のみなさんを圧倒した。余興や懇談で賑わったが、来年の再会を誓い合って閉会した。

55回目の慰靈祭



▲二中健児の塔に刻まれた名前を見る遺族の方々

55回目の慰靈祭は例年通り6月23日二中健児の塔で行われた。参列者の声を6月24日の両新聞の朝刊より抜粋し掲載した。

学徒出陣の兄を亡くした戦中のことは、昨日のことのようで、慰靈祭に来るたびに涙ぐむ。

戦時中の貧しさを今の時代に重ね合わせて自分なりの豊かさを考えると、物質的な豊かさは今の半分でよいから、あとは心の豊かさを大事にしたい。

〈沖縄タイムスより 平仲務さん（66）〉

仕事の都合で参列は今回が二回目だが、兄が朝夕歌っていた二中校歌を聞くと今でも涙が出る。生き残った人にとって沖縄戦はまだ終わっていない。語り継いでいかなければならない。

〈琉球新報より 照屋 健さん（66）〉

関東城岳同窓会では恒例の総会ならびに懇親会をさる11月13日（土）、霞が関ビル33階で開催した。出席者は122名と例年に比べやや下回ったが、総会は、来賓として出席された島袋真栄那覇高等学校長（H12年3月31日付定年退職）の祝辞と強く逞しく発展する母校の近況説明に一同感銘を受けた後、役員改選の議題が上程された。上江洲会長が健康上の理由で勇退されたため、選考委員会は、新会長に二中34期山路（旧姓徳田）安清氏を推挙し、満場一致で承認された。懇親会は、二中19期桑江正雄氏の乾杯の音頭で始まり、新規卒業生の7名も加わり先輩後輩が分け隔てない歓談を楽しんだ。毎年趣向を凝らした、内容で雰囲気を盛り上げているが、今回は故郷の懐かしいノーマンジュー、スチーカー、チデークニーなど自前で調達した27品目を原価即売し大好評であった。また、会員から寄贈された品々の抽選会も恒例となって人気があるが、特に、今回は二中33期伊佐千尋氏からの近著



▲那覇高校校歌を斎唱（中央3名は新会員）△

「邯鄲の夢」……。

中国……詩と歴史の旅……が注目された。

最後は参加者全員で二中・那覇高校歌を齊唱し散会、各期ごとの同期会へと流れていった。

関東城岳同窓会 電話 03-3399-7615

副会長兼事務局長 福永（旧姓仲田）忠彦

「七石会」開幕大会

いしみね産クリニック 金城國弘(那高7期)

七期生も六十代半ばにさしかかり、定年を迎える年金生活に入る人が多くなった。とは言っても今や人生八十多いや九十、百歳も稀ではなくなりつつある現在、第二の人生を如何に過ごすか道のりは長い。晴耕雨読で悠々自適の人、なお、現役としてリサイクル人生を歩む人などいろいろであろうが、何といっても現役の頃叶わなかった趣味に興じてそこに生き甲斐をみつけていく人が多いのではないか。書画骨董、歌舞音曲、スポーツに旅行など趣向の世界も多種多様



▲城岳同窓会館にて

である。しかも趣味に定年はなく時間もたっぷりあるとなれば楽しまない手はない。無為に過ごすことを戒めた孔子の言葉「博奕を為すはなお己（や）むに賢る」（ばくえき一すごろくや碁、一日中ゴロゴロして何もしないよりは碁でもやった方がまし）にならうわけではないが、この度、囲碁同好会七石会が発足したことは大変喜ばしい。早速第一回大会が1月30日城岳同窓会会館で行われた。初回にも拘らず11人の同好の士が集まり楽しい雰囲気の中で対局が行われ成績上位の源河、吉川、照屋君らが表彰されたあと、懇親会も盛り上がり、盛会裡に終了することができた。七石会のメンバーが更に増え交流と親睦の輪が広がることを期待してやまない。最後に戦乱の東北地方を平定し余生は命を天にゆだね楽しく過ごすことを願った伊達政宗の引退（定年）の句を挙げ駄文を締めくくりたい。「馬上少年は過ぎ、世平らにして白髪多し、残躯は天の許すところ、楽しまざるを如何せん」



会員寄稿

城岳の麓の日々



久場政彦（二中23期）

半世紀前の二中生の頃は、それほど豊ではなかったが、平和で楽しい思い出深い時代だったと思う。われわれが新しい帽子に憧れの「ペンと剣」の金色の校章を輝かせ、純白の二本のテープを巻いて、ガジュマルの緑したたる並木を通り沖縄県立第二中学校の校門を湧き出る希望にもえてくぐったのは昭和7年の春であった。昭和7年といえば、前年に勃発した

「満州事変」にひきつづき「第一次上海事変」が起こってキナ臭い匂いの立ちはじめた頃で、時の蔵相の井上準之助が血盟団員に暗殺されたり、陸海軍将校らによって首相の犬養毅が射殺されたいわゆる「五・一五事件」で国の内外が騒然となりはじめていた。

しかしその暗い陰りは10代初期のわれわれの澁刺たる魂には未だそれ程重くはないしかかつてはいなかった。とにかくわれわれは明るく楽しかった。二年、三年になっていくと、柔道では仲元、宮里、大城、宮平君など、また剣道では富山、呼子、仲栄真君等が県下の大会に幼年組のホープとして活躍し、陸上でも兼城、新嘉喜、呼子の諸君、野球では新崎、根路銘、宮良、バスケットは嘉味田、富山君等、長距離ランナーの吉川君とわが級友たちはスポーツ界で二中にたびたび優勝をもたらし、屋富祖、国吉、崎山君等は弁論部で大いに熱を上げ、瀬嵩、安仁屋、富山君等は県の絵画界では評価の高かった樹緑会で受賞し、級友の士気は軒昂たるものがあった。教師もそれぞれ個

性のある良い先生方だった。ライオン、タンメー、ヒジュル、ポンスケ、アモーグラー、ギゾー、マチー、アーマンなど他所の人が聞いたら外人教師がそんなに数多く居たのかと思わせるような面白いニックネームのティーチャーズの薰陶のもとにわれわれの青春は多彩に綻び、それぞれの道程を歩みはじめていたのであった。

ところが卒業期の昭和12年頃になると「盧溝橋」で日中両国軍が衝突して日中戦争が始まり、日独伊防共協定が締結されるなどして我が国は悪夢の様な第二次世界大戦への坂道をころげおちていった。そしてわが級友も少なからず戦場の露と消えて再び会うことができなくなったのはまことに痛恨きわまりないことである。しかし、何はともあれ、われわれは多感な青春の一時期を城岳の麓の陰で大和人墓の松林とガジュマルの隣で囲まれた「まほろば」二中の校庭で共に過ごし、結び合った友垣の絆をたよりに、時折集まって人生の思い出を語りあえるのはまことに有難く楽しい限りである。

1985年（昭和60年）

社会・経済評論／隨筆集

20世紀の黄昏

久場政彦

より抜粋



◇◇◇ あいさつ ◇◇◇

那覇高等学校校長 金城永真

城岳同窓会の会員の皆様に、ご挨拶を申し上げます。今年は、本校創立90周年の記念すべき節目の年であります。3万余名の立派な卒業生を輩出し、県内はじめ県外でも各界のリーダーとして活躍しております。

本校は創立以来屈指の伝統ある進学校として、その基盤を築いて参りました。生徒達も、校訓である「和衷協同」「積極進取」の精神に基づき、多感にして最も成長する高校時代に勉強の傍ら、スポーツ活動等に励み、意欲的に、逞しく成長しております。これも、同窓会をはじめ父母・教職員の皆様の御努力の賜であります。

ここに、草創の思いを顧み、文武両道、

創立以来の教育理念と教育目標の実現を目指し、生徒・職員一丸となって新しい学校づくりに務め、意氣盛んな校風を樹立していく所存であります。

最後になりましたが、平成10年10月17日、本校の88周年（トーカチ）祝賀式典も挙行され、同窓会の皆様には、物心両面からのご援助を頂き心からお礼を申し上げます。また、これからも同窓会の皆様方のご期待に添えるよう、生徒、先生方、父母の方々全員で心を一つにして頑張りたいと思います。今後ともよろしくご指導、ご鞭撻の程お願い申しあげ、私のあいさつと致します。

◇国外留学生に國場美加さん決まる◇



▲宇良宗真同窓会会长より奨学資金の贈呈

私は、那覇高校同窓会の奨学生で、今年の夏から1年間アメリカ留学のチャンスを得ることができました。アメリカ留学は、中学生の時からの夢で、まさかこんな早い時期に実現すると思っていなかったので、とても喜びを感じています。出発を1ヶ月後に控え、派遣先もテキサス州ヒューストン市に決まり、だんだん実感も湧いて、これから始まるアメリカ生活に期待もたくさんあります。また、アメリカで出会った人々にも何かを与える人になれたらいいと思っています。このチャンスを頂けたことに、とても感謝しています。本当に有難うございます。

(3年2組 國場 美加)

◇那覇高校ニュース◇

平成12年3月1日、第53回卒業式が挙行され、普通科512名、衛生看護科40名、計552名が卒業し、同窓生の仲間入りをした。卒業生の進路状況は、国公立66名、私大159名。私立短大39名、専門学校102名、就職14名、文部省管外8名で就職決定率は71%であった。

高校総体には、本校は18種目の競技に251名の選手が参加した。団体戦では剣道女子が準優勝、同男子が3位。水泳が男女総合2位。空手道が女子組手3位。男子テニス3位。弓道が男子3位と活躍した。個人戦でもそれぞれの種目で優秀な成績を収めた。

文化系では、九州地区書道席上揮毫大会で優秀賞、俳句サミットで外務大臣賞、県知事賞、そして、水難事故防止標語で上位3点に入った。

城岳同窓会会報

編集発行 城岳同窓会
〒900-0014 沖縄県那覇市松尾1-21-53
電話・FAX 098-867-2525